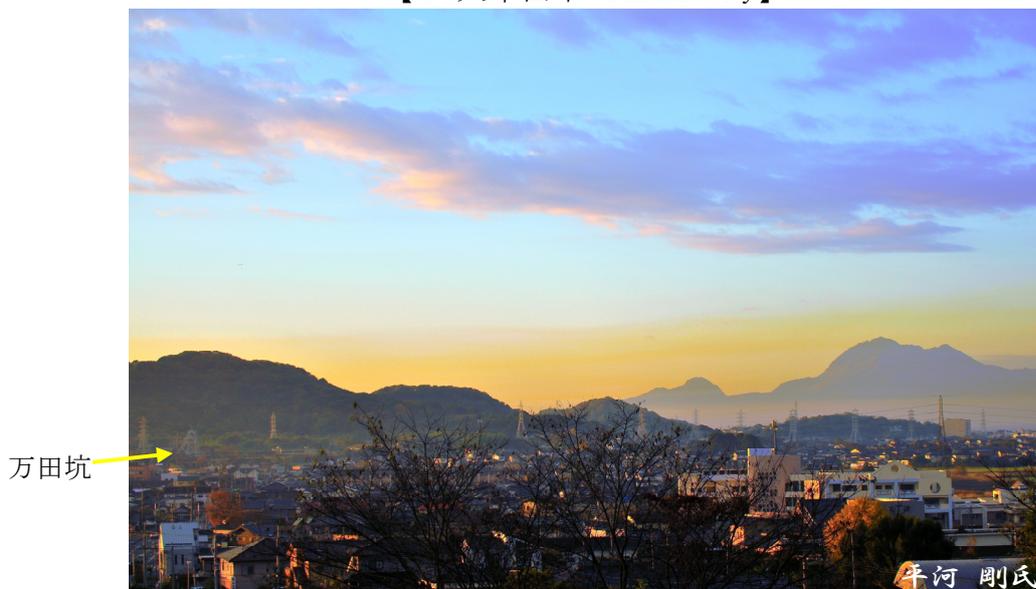


【6 大牟田市 Omuta City】



万田坑

潜塚（くぐりづか）古墳から

大牟田市では、市の西側に広がる有明海の沿岸部（三池港など）をはじめ、大牟田市動物園や大牟田延命公園、大牟田市民の森や甘木山公園、潜塚古墳、東部にそびえる三池山など、市内各地から有明海越しに“[北東面の雲仙岳](#)”が眺望できます。市内の小中学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。

市の南西側を通る国道 389 号線は、雲仙天草国立公園を縦貫する道路で、大牟田市～長洲～島原半島～天草下島～長島～阿久根市と 4 県（福岡・熊本・長崎・鹿児島）をつなぐ道路です。この道路の通過市町村のうち、阿久根市以外はすべて雲仙岳が眺望できる市町村であり、ドライブしながら山の多様な表情を楽しむことができます。

本市の名称は、有明海沿岸の大きな低湿地帯（ムタ）に由来しますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を矢部川や筑後川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

市内の最高峰・三池山は、約 1200 年の歴史を有する山岳信仰の山で、中腹にある普光寺・三池宮がその中核となっていました。その山頂からは約 1300 年の山岳信仰の歴史を有する雲仙岳が眺望でき、千年以上前の修験者達が日々目にしていた世界に思いを馳せることができます。普光寺の境内には、樹齢 450 年余りの臥龍梅が 200 本以上あり、春には一斉に咲き誇ります。空気が澄んだ日には、山頂から阿蘇山も眺望でき、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な太三角形（※阿蘇地域のページ参照）を視覚的にイメージすることが可能です。

平成 27 年に世界文化遺産（明治日本の産業革命遺産）に登録された三池炭鉱（同市内の宮原坑と荒尾市内の万田坑はその坑口施設、三池港は積出港）は、有明海の地下に広がり、全国一の石炭産出量を誇っていましたが、作業の機械化が進むまでは、雲仙岳で放牧・育成された“島原馬”が、坑道内の石炭運搬に活躍していました。三池炭鉱の石炭産出を、実は雲仙岳が裏で支えていた、とも言えるわけです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、大牟田市内を旅してみませんか？

●大牟田市の観光情報はこちら ⇒ 大牟田観光協会 <http://www.sekoia.org/>



甘木山公園から



三池港から